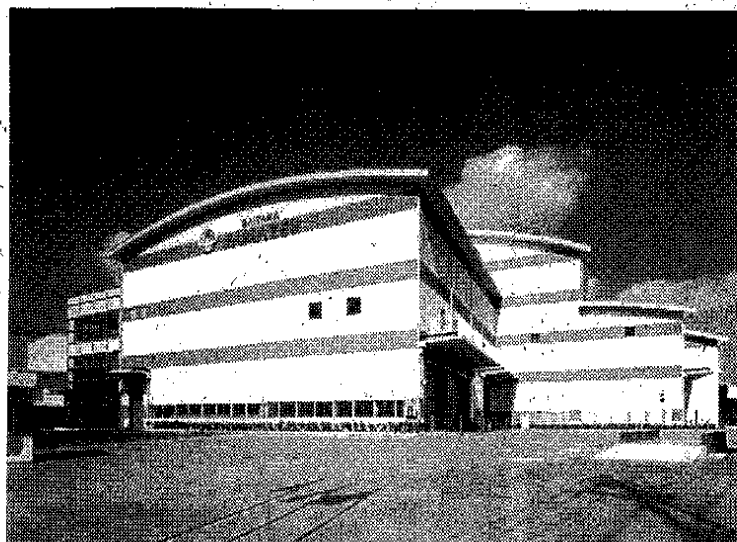


埼玉ヤマゼン

一廃飛灰の受入開始

人工砂にリサイクル

焼成で無害化処理



工場の外観

埼玉ヤマゼン（埼玉 県寄居町、若林伸次社長、☎048・582・5503）は、2009年12月に一般廃棄物の飛灰を扱う廃棄物処分業許可を追加取得、今月から受け入れを開始した。従来から都市ごみ焼却灰や産業廃棄物の燃えがら、無機性汚泥、鉍さい、ばいじんを焼成して人口砂に再製品化していた

が、一廃の飛灰や混合灰も合わせて処理できるようにになった。

施設の受入能力は1日当たり300ト、焼成炉は二系列で同28ト、人工砂の生産は同228トになる。2006年の稼働開始から処理量は年々増加しており、09年度は約6万トと処理能力に対して7割弱の稼働率となった。今回の許可取得による飛灰の受け入れは年間1万2000ト、2万4000ト程度を見込んでおり、10年度

は85%の稼働率を目標にする。

受け入れた焼却灰は、粉じんや臭気の問題がないよう密閉されたピットで保管する。

破碎と選別をして製品に残った場合もこの触媒で分解して排出する。

鉄などの不適物を除去する。還元剤を焼却灰に添加し、ロータリー

焼成後、焼成物を冷却し、粉碎機で細かく粉碎する。粉碎品に水

キルン式焼成炉で約1000度Cの焼成処理を行い、重金属類の揮発分離・不溶化・ダイ

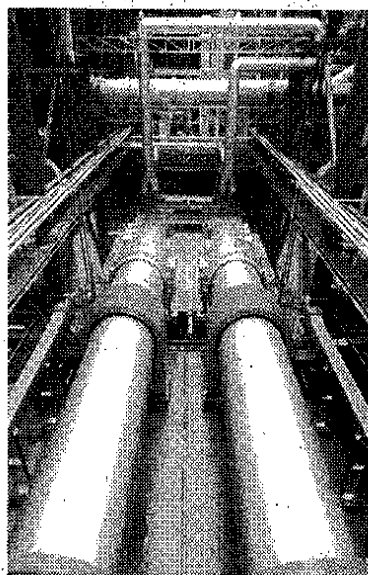
オキシンの無害化を行う。二次燃焼後の排気ガスは急冷してダイ

オキシンの無害化を行う。二次燃焼後の排気ガスは急冷してダイ

人工砂は、セメントが硬化するまで製品ストックヤードで養生させ、土壌環境基準の試験をした後、リサイクル製品として出荷する。製品は多孔質で吸水率が約20%と高く、

下層路盤材やヒートアイランド対策資材、雑草抑制資材、水質改善資材の材料として用いられている。

下層路盤材やヒートアイランド対策資材、雑草抑制資材、水質改善資材の材料として用いられている。



ロータリーキルン式焼成炉